

中学校 保健体育科

1 改訂の趣旨及び要点

目標の改善

保健体育科で育成をめざす資質・能力を3つの柱で整理しています。

体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的な解決に向けた学習過程を通して、**心と体を一体としてとらえ、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

知識・技能の習得

各種運動の特性に応じた技能等及び個人生活における健康・安全について理解するとともに、**基本的な動きや技能を身につける。**

思考力・判断力・表現力等の育成

運動や健康について自他の課題を発見し、合理的な解決に向けて**思考し判断する**とともに、他者に**伝える力**を養う。

学びに向かう力・人間性等の涵養

生涯にわたって運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。

「体育や保健の見方・考え方」とは・・・(下記 _____ 線が見方、_____ 線が考え方)

体育の見方・考え方

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上を果たす役割の視点から捉え、自己の適正に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

保健の見方・考え方

個人及び社会生活における課題や情報を、健康や安全に関する原則や概念に着目して捉え、**疾病などのリスクの軽減や生活の質の向上、健康を支える環境づくりと関係付けること。**

内容構成の改善

次のように改善されています。

現行学習指導要領		新学習指導要領	
体育分野	保健分野	体育分野	保健分野
A 体づくり運動	(1) 心身の機能の発達と心の健康 (2) 健康と環境 (3) 傷害の防止 (4) 健康な生活と疾病の予防	A 体づくり運動	(1) 健康な生活と疾病の予防 (2) 心身の機能の発達と心の健康 (3) 傷害の防止 (4) 健康と環境
B 器械運動		B 器械運動	
C 陸上運動		C 陸上運動	
D 水泳		D 水泳	
E 球技		E 球技	
F 武道		F 武道	
G ダンス		G ダンス	
H 体育理論		H 体育理論	

個人生活における健康に関する課題を解決することを重視する観点から配列を見直しています。

○第3学年では生徒が領域を選択して履修ができるようにします。(「B 器械運動」「C 陸上運動」「D 水泳」及び「G ダンス」から1領域以上、「E 球技」及び「F 武道」から1領域以上。第1、2学年の基礎の上に、選択領域のさらなる追及と体力向上に資するものであること)

解説 保健体育編をチェック!

体育分野の各学年で扱う領域・内容については、学習指導要領解説の p.202 を参考

各内容(運動領域のA~G)について、行い方や動き(技能)、思考力・判断力・表現力等を活用する場面、学びに向かう力・人間性等の具体について例示されています。

また、障がいのある生徒への配慮についても例示されています。(p234)

2 中学校保健体育科における授業づくりのポイント

授業づくりの前に…

主体的・対話的で深い学びの視点を確認。

＜主体的な学びの視点＞

- ・運動や健康について学習の見通しを立てる場面や、振り返りにより、自他の課題を修正したり新たな課題を設定するようにする。

＜対話的な学びの視点＞

- ・運動や健康について、対話を通して、自己の思考を広め深め、課題解決を目指して学習に向かう場面を設定する。

＜深い学びの視点＞

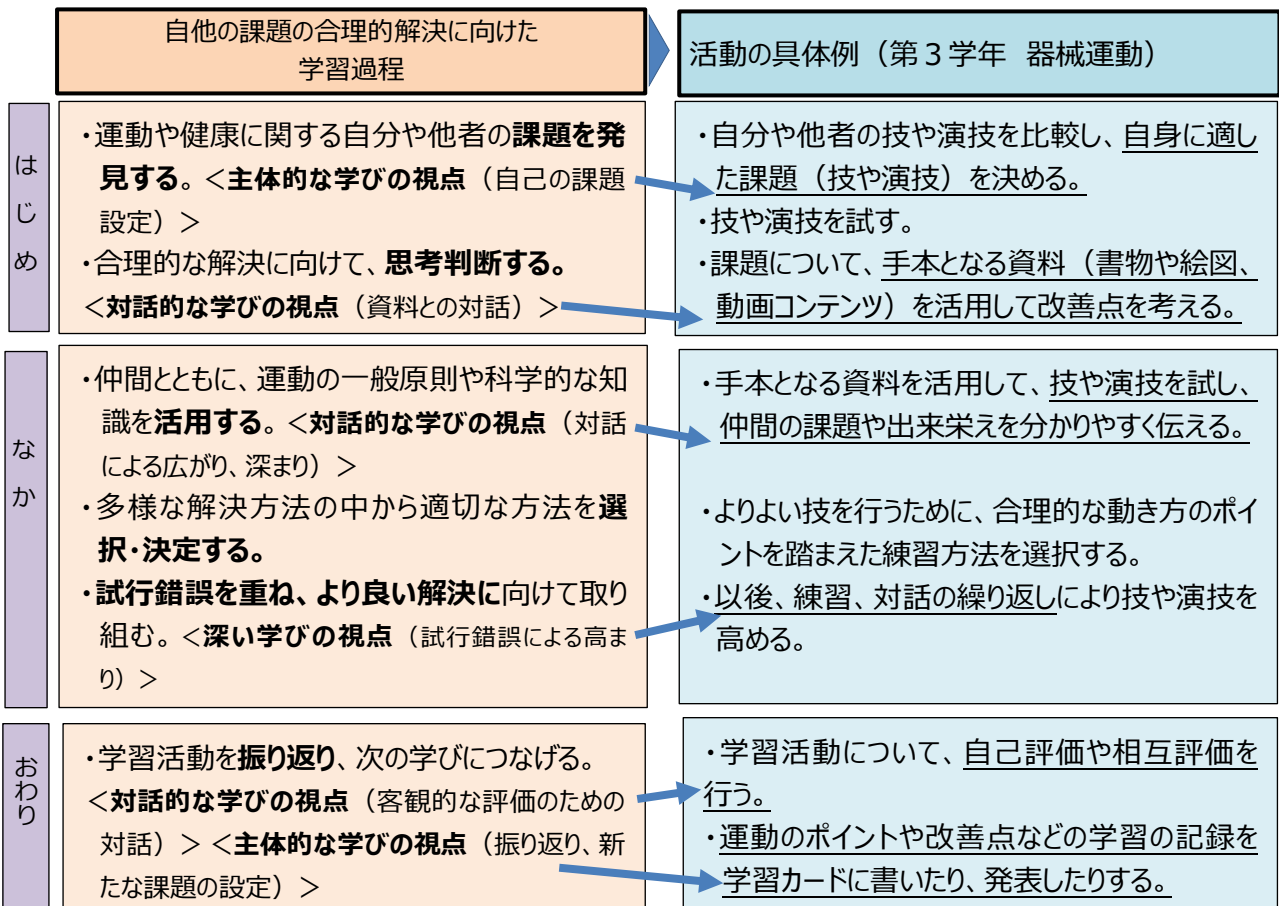
- ・習得・活用・探究という学習過程を通して、運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて試行錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する場面を設定する。

単元計画作成の段階で…

「自他の課題の合理的解決に向けた学習過程」を単元の中に位置づける。

単元
目標

- ・技ができる楽しさや喜びを味わい、技の行い方、観察の仕方を理解するとともに、自己に適した演技を行う。
- ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて取り組み方を工夫し、自己の考えを他者に伝える
- ・自主的に取り組み、称賛や助け合い、個々の課題設定や挑戦を大切に、健康・安全を確保する。



ICTの活用が効果的な例
【自他の動きを知る】

- ・技のポイントとなる動きを動画教材などで確認する。
- ・自他の動作を録画し、技の改善点を発見する。
- ・動画から合理的な動きについて、他者にアドバイスする。